企業からの参加者

**Shawn Sweeney**

*インテル®：事業開発、エッジのリイマジニアリング*

**Shane Engle**

*HCLテクノロジーズ：取締役、Go-to-Marketエキスパート*

**Renu Navale**

*インテル®：副社長、データ・プラットフォーム・グループ　ジェネラル・マネージャー*

................................................................................................................................................................................................................................

発言内容

**ナレーション**

さて これはどういう意味でしょう "必要なのは アイデアと Intel Inside®だけ" 現在の動きの速い ハイテクの世界で- 大きなアイデアを実現させるのは- インテルにしかできないパートナーシップ なぜなら 私たちの 顧客第一のアプローチは- 口先だけじゃないからです 私たちがシリコンバレーに シリコンを持ち込んだ瞬間から- インテル®はこの業界を 大きく加速させて来ました 大胆なイノベーションの 新時代への道筋を作ること そして どこよりも 熱心に取り組むのが- 明るい未来を エンジニアリングすること だからこそ 私たちは 業界で最大の転換点を生み出し- 最も必要な場所に インテリジェンスを届けます それもインテル®にしかできない方法で マルチアーキテクチャーな アプローチは- 顧客のビジネスを 内部から変える力となります 私たちは AIを 大きく民主化し- ソフトウェアと ハードウェアをつなぎ- 新しい可能性を開きます そして そのイノベーションは- 世界中へと私たちの５G技術で あっという間に広がります 世界中の事業者と協力し- 未来のネットワークの 新しいビジョンを作っています 私たちはインテリジェンスを エッジに展開しています ３万件を超えるエッジ・ツー・ クラウドソリューションを展開してビジネスの成果を加速しています また そのイノベーションを 街に拡げ- 新技術や先進のデータレイヤーを 展開することで- 自動運転を可能にするだけでなく- 安全でシームレスなものとしています 私たちは 毎日 世界を変える技術を作り- 地球上のすべての人の 生活を豊かにすることに- 大胆に取り組んでいます 広さも深さもある インテル®独自のポートフォリオと世界的スケールによって 他にはまねのできない触媒として- パートナーの 目標達成のために働きます あなたも 大きなアイデアがあれば- それにかけて 一緒に素敵なことをはじめよう™

**Shawn Sweeney**

みなさん インテル® ネットワーク・ビルダー- エンタープライズ・ネットワークの インサイトシリーズへようこそ 私は ショーン・スウィーニー インテル®の事業開発マネージャーで- 今日のウェビナーの 司会を務めます 私たちのウェビナー 『なぜエッジ＆AIなのか？』に- ご参加いただき どうもありがとうございます 今日は インテル®のパートナーである HCLのプレゼンから始めて- その後 プレゼンターと 少しディスカッションをする予定です 始める前に このウェビナーを より楽しんでいただくために- BrightTALKツールの 主な機能を説明します 視聴画面の下に 質問タブがあります ライブ配信をご覧の方は いつでも良いので- ぜひ 質問をお寄せください また 添付資料タブには- このプレゼンテーションに関する 追加資料や- 参考文献があります また 調査用リンクから- ぜひフィードバックをお寄せください みなさんのご意見は大切に取り扱い 今後のウェビナーの- 改善に活用させていただきます インテル® ネットワーク・ビルダー エンタープライズ・ネットワークの- インサイトシリーズでは 毎月ライブ配信をしています チャンネルをチェックして 今後のウェビナーをご確認ください また 録画コンテンツは ライブラリからもアクセスでき今後充実させていきます ここにあるリソースに加えて- NFBや５Gに関する 包括的な研修プログラムも- インテル®・ネットワーク・ビルダー大学で 提供しています このプログラムへのリンクも- 添付資料タブにありますので どうぞ 今日迎えるのは HCLの シェーン・イングルさん そして インテル®の レヌ・ナヴァレです イングルさんはテクノロジー業界で 20年の経験を持ち- ITの活用やインフラストラクチャー IoTなどの- 分野にまたがる 専門性をお持ちです 加えて IoTやエッジやAI- そして それらが業界にもたらす変化に関する 幅広い経験をされてきました 様々な組織に対して 転換に繋がるような- デジタルプログラムを 展開・拡大する支援を行い- 重要なKPIにおいて大きな改善を もたらすことに貢献されています レヌ・ナヴァルは インテル®の データ・プラットフォーム・グループの副社長で- エッジ・コンピューティング エコシステム・イネイブリング部門の ジェネラル・マネージャーです ネットワークエッジ・コンピューティングの 事業セクターで- インテル®の存在を強化するための- 全体戦略 ソフトウェア プラットフォームの責任者です お二人ともよろしくお願いします 今日はご参加いただきありがとうございます

**Shane Engle**

参加できてうれしいです

**Shawn Sweeney**

ではイングルさん お願いします

**Shane Engle**

はい ありがとうございます 私は このセッションの 準備をしながら- 昨年行なった お客様との- ミーティングのことを ずっと考えていました 多くのお客様がこう質問してきました なぜみんなエッジとAIの 話をしているのか？ 私は正当な理由があると思います いくつかのトレンドは 今までずっと続いてきましたが- それがここまでの状況を起こしたのです １つ言えるのは- エッジやAIには 本当に大きな- 価値や力があるのですが この４年か５年の間- ほとんどの企業が 焦点を当てていたのは- クラウドでした クラウドは ITが変わるための 大きな力です クラウドによって ITチームは存在感を高め- データセンターを拡大しました 通信事業者にとっても- モバイルのエッジ・コンピューティングを拡大し- 処理能力を 実際にアクションが起きる場所へ- どんどん近づけました しかし エッジやAIは- そこには抜けていた いくつかのケイパビリティーを- もたらしてくれると考えています クラウドの欠点の１つは とても高価なことで- データの保管に とてもお金がかかります データをクラウドに移動するのも とても高価です 私が思うに この4年か5年の間は- 各企業はクラウドを愛用していましたが- クラウドが予算を食いつぶすと 気づいたのです お客様の話にも- クラウド関連の費用が 予算オーバーになった例がありました しかし もっと大切なのは クラウドコンピューティングの- 別の欠点が 有意義なインサイトや結果を- 入手する邪魔になっているということです その欠点はネットワーク遅延です データを元の場所からクラウドに 移動させることを考えてください 膨大の量のデータは- クラウドに移動させるのに 長い時間がかかり- インサイトを計算するのにも 時間がかかり- そのインサイトを欲しくてたまらない人へ- 届けるのにも 長い時間がかかります これが多くの課題を生んでいる原因だと私は思います だから エッジやAIが- より多くの価値や トランスフォーメーションへ- 企業を導く技術として- トップ10に入る期待をされているのです この点は ガートナー社が 最近発表した報告書に- しっかりと書かれています この報告書を読んだことの中で- とても面白いと思ったのは- 2023年までに 計算処理に使われるデータの50％は- 従来のデータセンターの外に 置かれるという予測です ここで言われていることは そのようなデータが- 元々あった場所により近い場所で 保持されるということです これは価値あるトレンドで- エッジやAIによって 可能になることだと私は思います カメラやマイクなどの エンドポイントや- センサーについて 考えてみてください AIアルゴリズムが搭載され- そのハードウェアで インサイトを処理することが- エンドポイントでも できるようにされつつある それが今なのです それが可能である理由の一端は- インテル®がもたらす チップや処理能力の向上で- インテル®はまさにこの分野のイノベーターです また チップのコストも 合理的な値段になり 今では お客様の持つ エンドポイントに- ３つか４つのアルゴリズムを 実装できています これによって実現するいくつかのことで 全体の状況は変わります １つは サイクルタイムを 削減できることです データが大きくなる場合でも- そのデータをエンドポイントで処理して- インサイトにすることができ- インサイトは数分で手に入ります 一方 クラウドを使っていた時には- データのサイズによっては- 処理を終えるのに 30分かそれ以上時間がかかる場合もありました なので これらのトレンドは- 多くのイノベーションを 後押しするでしょうし- ソリューションが- 分散型アーキテクチャーで実装されることを 促進するでしょう もう１つの興味深い新展開は- 「ファーエッジ」で モバイルのエッジ・コンピューティングを- 通信事業者が提供していることです この数年間にわたって 起きていたことで 素晴らしいトレンドです これも同様に データセンターの処理能力を- アクションが起きる場所へ より近づけるからです ただ インテル®や スマートエッジ・ソリューションにより- 可能になった新しいイノベーションは- 「ニアエッジ」の考え方です 都市の区画を想像してください 工場や小売店でもかまいません オペレーションの最中はつねに エッジデバイスを使うことで- データを収集できて AIを実行でき さらに ネットワークに入る人々が- 実際に資格があるユーザーかどうか 確認もでき- セキュリティーのレイヤーを提供し 自律的プロセスやマネージドサービスなどを提供し- インフラ全体をサポートすることさえも- 「ニアエッジ」なら実現します 私はこのイノベーションが- 今後数年のトランスフォーメーションを もたらすと考えています １つの事例として インテル®や他のパートナーと- 共同で開発したソリューションが- デジタルサーベイランスに 関するものです ご存知の通り ほとんどの都市では 外を歩くと- いろいろな場所にカメラが 設置されているのがわかります しかし 現在のアーキテクチャーは- 閉じられた回路のような状態で- 警備や警察のような人が チームでモニタリングしています- また 一部では AIが使われていますが 先ほど言った通り 使われているのはクラウドの中です 一方、監視が行われている時や- 警察が事件を解決しようとしている時や 治安を向上させようとする時には- 迅速な情報入手が 不可欠です エッジなら インサイトを 導き出して- ほんの数分で 警察の指令本部に提供することができますが こんなことは 今までありませんでした 私たちはいくつかの都市で このアプローチを実装しました メキシコとアメリカの 両方で これが実装された地域では 犯罪が減少し- 70％以上減った例もあります これは 担当部署の人に言われたのですが- もっと早く導入するべきだったのです これのもう１つの側面は 地元の市民との連携です 希望する市民は全員- 電話にアプリを入れることができ- 警察がそこに情報を送ることもできるし- 市民から警察に 情報を返すこともできます これは素晴らしいことでした 現在 私たちはこれを 展開させている途中で- アメリカ国内の地域やラテンアメリカにかけて- また他の地域にも 広げようとしています このユースケースは 都市だけが対象ではありません このユースケースには スポーツアリーナに対するものも- 企業のビジネスキャンパスに対するものも- 大学のキャンパスや エネルギー企業に対するものなども 他にも多くのユースケースがあります 別の事例では 私たちがインテル®のスマートエッジを使い- 小売業界に対して 価値あるインサイトをもたらしました 小売業者がぜひ知りたいと 思うことの１つが- 顧客が複数の店を どのように渡り歩くのか- どの製品を見るのか- そして どの製品を買うのかです 顧客が店内を移動中に 複数の商品を- セットで販売する 提案をしたいと考えます そして ほとんどの場合- レジでどのように行列ができるのかも 理解したいと考えます 商品補充の作業もどうすれば効率的に できるだろうと考えます 私たちが店舗に設置するミリ波センサーを- インテル®のスマートエッジに接続すれば- これがすべて可能になります そして まだ少数ですが 私たちがこれを実装した 小売店では- コロナ禍が下火になり 元の生活に戻り始めるにつれて- 驚くほど売り上げが 向上しました 小売店に行く人が 次第に増える中で- 小売業で このテクノロジーは とても役立っています このアプローチを使用した 製造業の事例もあります その会社は 受託製造事業を行っていて- とても広い敷地で- 様々な顧客のための 製造業務を行なっています それぞれの顧客のための業務には- 様々な種類のセンサーや- 様々な種類の設備が必要です しかし 低遅延ネットワークで それは可能です 簡単かつ素早く 装備でき- 新しい顧客が増えても- 新製品のためにも- 設定し直すことが可能です これは面白いプロジェクトでした 私たちはインテル®と提携しつつ- AT&Tや他の数社とも連携して- プライベートLTEネットワークを- エッジ・コンピューティングと 接続する構築を行いました たくさんのIoTセンサー 様々な種類のセンサーを使い- 画像や音声データ 振動データなどを収集し そのすべてがインテル® スマートエッジを通じてつながります このソリューションを使うことによって この企業はこのようなプロセスを- より良く管理・再設定することが できたと思いますし- インフラストラクチャーが 構築されてからも- より良いサポートモデルが提供され- IT管理はより自律的なプロセスで 行うことが可能になります インテル®のスマートエッジで これらすべてが可能になるのです 次の興味深い 私たちが仕事をともにした顧客例は- 土砂運搬設備の 世界的な製造業者です この事業において この会社にとって- 最も大切な バリュープロポジションは- より短いサイクルタイムで 道路を作れること- そして 大型設備を最初に使った時 成功したことの改善です そして 今回は モーターグレーダーと呼ばれる- 操縦者が使う設備が難関でした この設備の操縦者は- 土砂を動かすブレードの 真上に座っていて- 実際に何が起きているのか 操縦者が見るのは大変困難です そこで この会社と一緒に- 画像データを収集する方法を確立しました- ブレードの角度や どれだけの土砂を動かしたのかを- 操縦者に伝えられるようにし- リアルタイムのフィードバックを 提供することで- 道路建設のための整地作業が- 最初からできるようにしました この事例では インテル®のスマートエッジは ソリューションの別の構成要素で- 設備全体の様々な場所に 多くのセンサーが設置され- インテル®のスマートエッジを通じて つながり- AIアプリケーションが実行され すべての分析作業が行われ- リアルタイムで操縦者に 提供できるようにしました リアルタイムで処理できる ソリューションがなかったら- このようなことは 絶対行うことはできませんでした そして 最後に- もう１つご紹介したいのは- エネルギー業界の事例です 電力設備のことをご存知なら わかると思いますが- 電力会社は発電所を所有し- 同時に 多くの地域にまたがって- 変電業務や送電業務も行なっています これには変電所や そして 電柱や 何キロも続く電線も含まれます このような巨大な インフラストラクチャーを- 管理する上で 大きな問題の１つとなるのは- 停電が起きた時に気づくこと- 停電が起きた場所を発見すること- そして 植物が障害になるのかどうか というようなことを- 理解することです そこで 私たちは 電力会社と協力して- ドローン技術や 画像解析を使い- そのすべてを エッジの人工知能につないで- 様々な電線を簡単に点検できて- 人手のかかる仕事については それが必要な場所を特定できる- ソリューションを構築しました 樹木の剪定など 停電を起こさないための- 予防的対応ができるのは- エッジにあるAIのおかげです 様々な業界での事例を ご紹介してきましたが- そこではこのテクノロジーは 明確なバリュープロポジションがあります 私は エッジ・コンピューティングやAIが- 最大のトレンドとなり- 今後数年にわたり 最大級の バリュープロポジションをもたらすと- 信じています それでは スウィーニーさんに お返しします

**Shawn Sweeney**

ありがとうございました 本当に素晴らしいプレゼンでした 挙げられていた 顧客側の見解が非常に面白かったです 当然HCLには お付き合いされてきた顧客の- 幅広いポートフォリオがあります ここでレヌも呼んで- 少し質疑応答をしたいですし- この話題について 少し議論ができたら うれしいです

**Renu Navale**

素晴らしいプレゼンを どうもありがとうございました 私もこのウェビナーに参加できて とてもうれしいです

**Shawn Sweeney**

では 最初に- 登場し始めたエッジ・アプリケーションや その中でAIの果たす役割について- 顧客からの質問に 共通するテーマは何ですか？ そのあたり いかがでしょうか？

**Shane Engle**

そうですね 私たちが一緒に働く ほとんどの会社には- 実際の業務があります ほとんどの会社は クラウドコンピューティングを 大幅に活用しています ほとんどの会社は 資産や- 現場で様々な機能を担う人材を持っています 彼らが本当に追及しているのは- 効率を向上させる方法や- よりタイミング良くインサイトを 作る方法です 私たちはリアルタイムの解析の話を ずっとしてきていると思います 多くの事例で ERPシステムや 財務データや操業データに関連していますが- そのデータは リアルタイムです ただ それを実際に作業が行われる 現場に展開すると- ほとんどの会社で 操業のための- 最も大きな支出が行われているのは 現場です みんなが探しているのは 現場で何が起きていることを理解する方法や－ そこでの結果を改善する方法です そして エッジやAIは そのすべてに共通する要素です

**Shawn Sweeney**

ありがとうございます では レヌ インテル®がエッジとAIの合流を- どのように見ているのか 背景を話してもらえますか？

**Renu Navale**

わかりました インテル®のCEOゲルシンガーが 言い続けていることですが- 強大な力を持つテクノロジーには- 5Gネットワークへの移行- 人工知能が挙げられますが- そこに インテリジェント・エッジの 台頭も含まれています 実際に 彼はこれらを 私たちの未来を形作る- 重要な変化だと言っています テクノロジーの未来を形作る- 特にエッジ・コンピューティングは これらの強力なテクノロジーの- 複合または融合で- ５Gネットワークへの転換やAIや インテリジェント・エッジがそこに集まります 今の段階で ５Gによって実現する未来は- コンピューティングが流動的で インテリジェントで 浸透性が高くになり- 完全に接続されたモバイルでスマートな 社会になることを 私たちは知っています 実際に 私たちが世界と つながる方法は変化していて- デバイスもシステムもプロセスも すべてリアルタイムで適応・学習します そして AIは エッジにおける もう１つの重要な変化で- ５GとAIの 組み合わせは お互いを強め合う 共生とも言える関係を- 一体として持つように感じています ５GとAIの組み合わせが持つ 潜在力を考えると- 今まで想像したことのないようなレベルの インサイトや効率性- 新しいビジネスによる収益に つながる可能性があります イングルさんに紹介していただいた いくつかの事例でも- それを見ることができました 小売の在庫を予測して 素早く リアルタイムで最適化される工場から- スマートシティや エネルギー計画に至るまで- ５GとAIを組み合わせるインパクトは あらゆる業界に広がり- まさに転換点となるものです これらのマシンが現実世界で- 学習・論理づけ・行動・適応 できるようにすることで- ５GやAIによって ビジネスが 大量のデータから- 多くの深いレベルの知識やインサイトを- 得られるようになると 私は強く信じています インテル®としては エッジ・コンピューティング- ５G そして AIに関する すべての戦略は- 基本的なコンセプトに基づいています それは 私たちの見ている すべてのユースケースにおいて- これらの多様な技術の融合には- 驚くほどの価値がある というものです ほぼ どのユースケースでも 見てきたのは- IoTワークロードを AIや- コンピューター・ビジョン ディープラーニングによる推論- そして ５Gなどの通信技術による ワークロードとも統合することです- これらのすべて この融合によってエッジに今までになかった価値が生まれると 私は心から信じています

**Shawn Sweeney**

素晴らしい紹介でした ありがとう 補足として 質問したいのですが- 先進的な垂直統合ビジネスを知っていますか？ また 特別扱いしなければならない垂直統合ビジネスがあればを- そこで一番に役立つ技術は何ですか？

**Renu Navale**

垂直統合ビジネスには- 本当にワクワクしますね なぜなら 垂直統合ビジネスも- ５GやAIやエッジ・コンピューティングの 力を信じているからです 世の中の先を行く垂直統合ビジネスは- 産業用でスマート・マニュファクチャリングや スマート・ファクトリーです このような企業は不良品の特定などのユースケースでビジネスの成果や価値を獲得しますが- ここでもコンピューター・ビジョンや AIによる推論や- ５Gによる低遅延の 機能が使われます これらすべてが１つになって スマート・ファクトリーや- スマート・マニュファクチャリングに- ビジネスの成果や価値を もたらします 私たちの知っている 他の垂直統合ビジネスとしては- 今 コロナ禍やパンデミックが 一段落している状態ですが- 確実に伸長している業種は 小売業です 小売業界が 強い関心を寄せるのは- 顧客にアプローチする方法を 本格的に変革することや- 顧客の分析や在庫管理- リアルタイム広告などの新しい広告です これらが小売における 様々なユースケースの例です 他に驚くぐらい伸長しているのは- より迅速な診断のためにデータの使用を 再編する方法など- 生命科学や医療の ユースケースにおいて- アプリケーションや価値を再構築することです 繰り返しになりますがこの業界にもまた 驚くほどたくさんの チャンスがあり- データの使い方を変革する方法や- ５Gによる低遅延の 機能- AIやディープラーニングによる推論を使ってインサイトを求めたり分析を行う 能力- ヘルスケア業界を 本当の意味で変革する方法を検討しています 他にもいくつか注目している分野があり- それは エネルギーや- スマートシティや交通 港湾 運輸です これらは それぞれ 別の垂直統合ビジネスで- ５GやAIやエッジが どのようにすれば採用され- 彼らがビジネスの成果や価値を 顧客に届けられるのかを 考えています しかし これらの中で 先行しているのは 間違いなく- 工業分野で つまり スマート・マニュファクチャリングや- スマート・ファクトリーです

**Shawn Sweeney**

なるほど イングルさん 先ほどの話でも はっきりお話いただきましたが- すべての垂直統合ビジネスを 見渡して- 顧客が特に苦労している点や それを解決するために- スマートエッジが どう役立つのか教えてください

**Shane Engle**

はい 今から話す事例は- 少し複雑なユースケースです 私たちは航空機メーカーと よく仕事をしていて- 世界には２つの大きな 商用航空機メーカーがあります １つはヨーロッパ １つはアメリカにあります そして 彼らと働き始めた時に 理解したのは- どの航空機でも 機内に データセンターがあるということです このデータセンターには- およそ2.5テラバイトの データがあり- その情報を集める 1000以上のセンサーが- 機首から尾翼まで 左右の翼にもついています 振動のデータもあります エンジンの稼働状況を伝えるデータも 大量にあります 私がとても驚いたのは 油圧設備の中や 飛行機のブレーキの中からも 多くのデータが集められていますが- それにアクセスする方法は- ラップトップを機体に 直接接続する方法だけなのです そこで 私たちは作業を始める時 ある通信事業者に尋ねました 着陸した飛行機が地上走行して- ゲートに到着するまでの間に- どうやったらこのデータを 入手できるのか もし入手できるなら それを一括処理できないか そして この飛行機が ゲートで止まっている時に- このデータを- 飛行機のために役立てられないか 質問しました 私が思うに ほとんどの航空会社が 苦労していることがあって- その状況に対処するために 予備の機体まで用意しているのですが- それは航空機が故障した時です そうなると- 航空会社の業績や 顧客へのサービスの水準など- あらゆることに大きな影響が出ます そこで私たちは大手商用航空機メーカー１社をサポートして 彼らがデータを集め- 着陸時に プライベート５Gネットワークで- データを送って エッジで利用できるようにしました こうすることで 彼らは必要な修理部品を発見したり- フライトのパフォーマンスを 計算したり- パイロットの仕事を評価したり- 燃料の効率を確認したり することが可能になりました これはまさに航空機産業の トランスフォーメーションです そして ご存知の通り- 今 この業界には多くの助けが必要です これは良い事例ですが- ナヴァレさんのおっしゃる通りで このような事例は- 小売業にも ライフサイエンスにも- 製造工場の中にも- 交通にも ロジスティックスにもあって- 私たちにはトランスフォーメーションの とてつもない大きなチャンスが広がっています

**Shawn Sweeney**

ありがとうございます すごいですね レヌ インテル®はHCLのような パートナーと協力して- スマートエッジなどのインテル製品®を 顧客に届けています インテル®が HCLのような 大きく能力のある世界的企業と- どのように協力するようになったのか 教えてもらえますか？

**Renu Navale**

はい インテル®が オープンなエコシステムの中で- 発展し 仕事してきた歴史を 考えれば- 自分たちだけで仕事はできないというのは- 常にインテル®の基本的な信念でした 私たちは大きなエコシステムと 一緒に働いて- 最終顧客に ソリューションや- 価値を提供しなければなりません 顧客側から見て- これがインテル®をユニークな企業にしていると私は本当に思います- このような方法がチャンネルや エコシステムパートナーとの協力を可能にしています 本格的な技術協力の場合も- 製品の導入やエコシステムを 促進・加速させるための- 大きなスケールのプログラムを通じての場合でも インテル®とHCLの協力は 何年も続いていて- クラウドから ５Gやネットワーキング- エンドユーザー・コンピューティングまで 広がっています AIやエッジもそうで- ここにAIとエッジも含まれます 本格的な技術協力だけでなく 私たちは投資によって- 研究拠点・研究施設を設立し 参照アーキテクチャーの開発も行ってきました 現在の協力は CPUのハードウェア構成レベルや ネットワーク・アクセラレーションのためのFPGAだけでなく- より上位にある重要なソフトウェアの機能に関しても私たちは協力しています スマートエッジなどはインテル®が提供し 北米などの新しいマーケットで- 無線のプライベートネットワーク・ソリューションのために HCLが使用しいるのはこの一例です 私たちは エッジソリューションを- まとめるのは複雑なことだと 理解していて- その展開を 成功させるためには- HCLのようなシステムインテグレーターが不可欠で- HCLは私たちが業界で規模を拡大するために不可欠な パートナーです HCLは インテル®が パートナーのために用意したプログラムも- 利用できます 例えば インテル® ネットワーク・ビルダー- IoTソリューションズ・アライアンス- マーケット・レディ・ソリューションズの プログラムなどは- 複数の顧客への 導入時に- 計画の再現性を 高める役に立ちます そして 最終的に 顧客企業にとっても- 市場に商品を出すまでの 時間の短縮や- 導入するのに必要な時間の短縮を可能にします

**Shawn Sweeney**

なるほど イングルさん レヌの今の話を受けて- パートナーとして インテル®を どう考えていますか？ そして このような分野で インテル®と仕事をすることについて- 特に気に入っていることを １つか２つ教えてもらえますか？

**Shane Engle**

はい 良い質問ですね そうですね 20年以上 この仕事を しているので- その間 他の企業との パートナーシップ構築を- 担当したり 試みたり してきました 提携するのが他より簡単な会社もあれば- ほぼ不可能な会社もあります- 私に言えることは - インテル®と仕事をし始めた時に- インテル®が熱心に助けようとしてくれたことに感動しました- それは技術やエンジニアリング 設計の視点からだけでなく- Go-to-Marketの視点も 持っていたことです 一緒に仕事したいと心から思い- 顧客に価値を届けることを 本当に大切にし- その能力をつけるための 投資を気に掛けてくれました これは金銭的な投資だけでなく- 教育やサポートも含めて- 本当に役に立ちましたなので 正直に言って- 本当に心からそう思っていて- HCLの全員も そう言えます- 今まで一緒に仕事をした中で インテル®が- 最高のパートナーだと思います- この関係を 本当にありがたく思っていますし- 今後も長い間 一緒に仕事をし- 成功していくことを 期待しています

**Shawn Sweeney**

とても光栄ですし- 私も感謝しています- レヌも そうでしょう レヌ エコシステムの発展に関して- 少し教えてください- なぜHCLのような システムインテグレーターが- そこに深く関わり そして イングレさんが言ったように- なぜ私たちが彼らの信頼を 得ることができるのでしょうか？ これについて もう少し教えてもらえますか？

**Renu Navale**

もちろんです 私が思うに - ショーンの表現は的確でしたが- 関係において重要なのは「信頼」です- これは私たちとHCLの協力 関係において- 最も大切な要素です 私たちは自分たちだけで仕事はできないと 考えています- それにはHCLのような企業と連携し 緊密に協力して- 自分たちの製品を 市場に届ける必要があります- そして最終的に- 市場に 価値を届け- 最終顧客が商品を市場に出すまでの時間や- 導入にかかる時間を 短縮しなければなりません その目標を忘れないようにすることで- 最終顧客が 最終的に成果を得られるように-パートナーとしっかり協力しています 私たちのスマートエッジに対する取り組みを見ると- それが始まった時から- スマートエッジは 法人顧客セグメント向けで そのセグメントの顧客がインテル®に求めるのはすぐに稼働する商用ソフトウェアです しかし このターンキーの 商用ソフトウェアをインテル®が自分たちで作って- 展開もするのは とても複雑なことだとも私たちは知っていました ここで HCLとの関係が とても重要になります ここでは 例えば- 私たちはHCLと- 直接仕事をすることだけを 促進したいのではありません- HCLは 様々なOSCやOEMとの私たちの取り組みからも- 間接的に恩恵を得ることができるのです 例えば- デル・テクノロジーズは Red Hatと緊密に提携していますが- インテルとも仕事をしていて- 高度に最適化された MEC参照アーキテクチャーや- ソリューションを 提供可能にしています これには 法人向けのエッジ・ネイティブのソリューションのために- ベスト・オブ・ブリードでキャリア・グレードの 部品が使われています つまり これらMECの機能は- すべてインテル® スマートエッジの 商用ソフトウェアが支えているのです しかし やはり これらのソリューションを用意するのは- 私たちのOEMや OSCからでも 展開するのはとても複雑です- なぜなら 多くの部品や機能を １つに集める必要があるからです ここで- HCLの能力や専門性が 不可欠になります HCLは すべての要素を１つにまとめて- 法人の最終顧客が 使えるようなものにできるからです つまり 私たちの戦略は 単に数多くの幅広いチャンネルパートナーと- 協力関係を結ぶだけでなく- アプリケーションベンダー・エコシステムのパートナーと- 幅広いワークロードや垂直統合の様々な層で 協力することです これもすべて HCLと協力して 仕事ができるようにし- それを活用してもらうことで- とても多様な法人顧客のニーズに 幅広く応えていくために

**Shawn Sweeney**

ありがとうございます ワクワクしました そこでお聞きしたいのです- お二人の熱意に動かされる人は 少なくないと思いますが イングルさん 少し教えてください- インテルとHCLで進める ビジネスの将来性を考えた時に- 気持ちが高まるのはどんなことですか？ 何が１日のやる気になりますか？

**Shane Engle**

そうですね 腰を落ち着けて 考える時 自分にとって 最も大きな夢は何か？ ビジネスで到達できる目標は何か？ 今までに実現できなかったけれど 可能性がある価値は何か？ そして いろいろな会社の人に会います 製造業だったり- 小売業だったり 警察や政府の人 交通関連の人もいます みんな真剣に 価値を届け続けること- そのためのコストを下げ続けること そして サービスを改善することを考えています そして どの会社もすでに 自分たちの会社にあるデータで- できる限りのことはすべてしている と私は思います だから これからは 業務に関連する データをつかまえ- エッジで処理して バリュープロポジションをもたらし- プロセスを自動化し 現場にデプロイされている- すべてのインフラストラクチャーを よりよく管理できるようにしなければならない 私は- 極めて重大なな局面にいると思います そして ここにある可能性に 私はとてもワクワクして- 毎朝起きるのがを楽しみです- もっと多くの企業の人と会って この話をして- 彼らが進んでいくための役に立てると思うからです

**Shawn Sweeney**

極めて重大な局面で- 私たちは 良いタイミングに 良い場所にいる おそらくそういう意味ですね

**Shane Engle**

本当にそうだと思っています いままでクラウドに 大きな注目が集まっていて- それは確かに価値のあるもので- 重要な役割を担っていますが- 会社の上層部が 達成すべきことを- 本当に達成できるようにするための 次の一歩はこれだと思っています

**Shawn Sweeney**

素晴らしい セリング・プロポジションですね レヌにも同じ質問です HCLとインテルの目の前にある ビジネスのチャンスについて- ワクワクするのは何ですか？

**Renu Navale**

そうですね まずは- 自分自身のキャリアを考えると- 20年以上になりますが- 今は本当に 「エッジに生きている」という感じです 引退後に振り返った時には- エッジの発展の一部に貢献できたと とても誇りに思うでしょう なぜなら 多くの業界にとっても 私たちの生き方にとっても- まさに転換点となるからです これが 私が毎日 ワクワクすることです 戦術上の課題に取り組み 戦略に取り組みながらも- 私は毎日 今日一日は 何をするのかを考え続けています そうすれば- 何年かのうちに 多くの業界で働く 多くの人の- 人生に影響を与え それを変化させます それが私を最もワクワクさせる 情熱や信念の一部です また これはまだ氷山の一角だと 私は信じています あらゆるユースケースを見ると- 私たちはまだ想像している段階にいるに 過ぎないと思います こういうユースケースが あるのではないかと- 製造業や小売業やヘルスケアや エネルギー産業などについて想像をしています しかし まだ想像し直す段階には まだ入っていません このようなユースケースや業界で- 自分たちが自分たちをどのように変化させると 想像し直されるのでしょう？ だから 私は未来にも ワクワクしていています- そこでは 多くのユースケースが- 想像し直され 変化する ことになるでしょう だから私は まだ 氷山の一角だと 思うのです そして 最終的に大事になるのは- 私が「３つのE」と呼ぶものです １つは「Economy経済」です 事業価値を 提供しなければなりませんし- サプライチェーンのみんなのための ビジネスが必要になります そして ２つ目は「Experience経験」で スマートエッジでも- 私たちは 顧客の経験や ユーザーの経験に焦点を当てて- その経験を 新しいアイデアや企業や 産業に届けています そして ３つ目は ある種の「Easy of Use使いやすさ」です つまり 使いやすくして- 顧客が導入したり- 既存のシステムやプロセスに 統合したりできるようにする必要があります どんな企業でも使ってもらえるように とても簡単でシンプルで簡単に管理できるようにしなくてはなりません つまり 経済 経験 そして 簡単さは- エッジ・コンピューティングや ５GやAIで- 成功するために 必要です

**Shawn Sweeney**

「エッジに生きる」 「３つのE」とですか イングルさん 何か付け加えることはありますか？

**Shane Engle**

今がこの分野で 最も刺激的な時だと思います。- 私は この５年間 HCLで IoTの責任者をしてきて この事業は 驚くほど成長しましたが- 私が思うに 本当に大きな成長が続くのは- エッジやAIを活用して すべてのセンサーデータを利用し- それを意義のある結果へと 変えていくところです 本当に大切なのは そこだと思いますし- 私たちには それをする 絶好の機会が来ていると思います

**Shawn Sweeney**

素晴らしい議論になり- 今日参加のお二人には 感謝します 私にとっても とても勉強になり とても刺激になりました 本当にありがとうございました

**Shane Engle**

どういたしまして

**Renu Navale**

ショーンも 司会ありがとう イングルさんのプレゼンは 素晴らしかったです- その後の議論も とても楽しめて 未来に向けての情熱や興奮を 共有していただく機会になりました 私は他のどこよりも- いまいる場所 エッジに生きていたいです

**Shane Engle**

同感です どうもありがとう

**Shawn Sweeney**

お二人とも同意見のようですね 今日は参加ありがとうございました そして みなさん ご視聴ありがとうございました ぜひ 添付資料タブのアンケートに お答えください その結果を今後のウェビナーの 改善に生かしていきます イングルさんとレヌの 参加はうれしいですが- 視聴者のみなさんには最も 感謝しております 貴重なお時間を- ともに過ごしていただき大変ありがとうございました